



コーちゃん・オーちゃんの 「見つけた！豊岡元気人」



チューリップで訪れる人を 笑顔にさせる仕掛け人

100万本のチューリップが咲き誇る「たんとうチューリップまつり」(4月26日まで開催中)。そのまつりに長年携わってきた実行委員長を紹介します。

霜倉和典さん(55歳)但東町坂津

球根を集めて まつりをしよう

「市の花がチューリップに選ばれるほど、このまつりも知名度が上がってきました。ここまで来るまでにいろいろありました」と話す実行委員長の霜倉さん。

但東地域では、昭和24年に米作りの裏作として、田んぼでチューリップの球根栽培が始まりました。平成に入り、価格の安い外国の球根が市場に出回ったり、農家の高齢化などにより、球根栽培が暮を閉じようとしていました。

そんな時、霜倉さんから12戸の球根農家は、「このまま終わるのなら、最後に個々に栽培している球根を1カ所に集めてまつりをしよう」と、平成4年、第1回のチューリップまつりを但東町坂野で2日間開催しました。

訪れた人々から「きれいだった。また来年も」の声に翌年も開催。そして、転機が…。

花で人が呼べる

平成6年に開催された「但馬・理想の都の祭典」のジャンボ花壇コンテストに参加するため、場所を現在の但東町



▲霜倉和典さん(55歳)但東町坂津。米・小麦の生産法人で、チューリップの球根栽培を営む。

畑山に移し、初めて、チューリップの花で描くフラワートで子午線の通るまちとして、「日本列島」に挑戦し、約1万5千人が来場しました。

「花で人が呼べる。農家のみんなも自信が付いた」と霜倉さんは話します。

人が天気に合わず

フラワートづくりは、前年の春から始まります。チューリップは、連作障害を起すため、毎年同じ場所に植え付けできません。そのため、田んぼ選びから始まります。そして、アートの図案を来年の話題性などを考慮して作成します。

図案ができると、次は球根植え。10月下旬、田んぼを起し、測量し、白い杭を立て、ロープで絵の線を引き、そし

て、翌日、約20人で10万球の球根を植えていきます(後日、アート以外の90万球を植え付け)。

霜倉さんは、「天気予報を見ることが日課です。この時期、但馬地域は、天気が

悪い。田んぼが乾き、植え付けを考えると晴れの日が5日続かないとできません。人の都合に天気は合わせてくれないうから、人が天気に合わずとが大変です」と話します。

人を楽しませたい

チューリップは、不思議なことに早く植えても遅く植えても、冬を越せば、4月には花が咲きます。そして、球根は、花が散ってから大きくなります。このチューリップのうち、約50万球が出荷され、出荷量は、西日本一です。

霜倉さんは「人を楽しませたい。お客さんの笑顔を見ると、苦労が報われます。私は、まつりの開催前から来年も来ていただくためにどうしたらいいのかと考えています」と話し、既に来年の開催を見据えていました。

保育園に遊びに行ってきた！

15

城崎保育園 (城崎)

〈園児67人〉



城崎温泉街の東に位置する

城崎保育園。周囲は、山に囲まれ、のどかな環境の中、園児たちは、元気にすくすくと育っています。

4月8日、4歳児29人がお花見に出かけましたので、その様子をのぞいてみました。

車に気を付けてサククラを見に行こう！

木屋町の大谿川沿いのサククラ並木を目指して保育園を出発。道路を歩くときは、友達と手をつなぎ右側を歩きます。交差点では、左右を確認して手を挙げて渡ります。そろそろサククラの花の香りがしてきました。



きれいだね！

満開のサククラ

園児たち

ちは「サク

ラがいっ

ぱい咲い

ているよ」

「きれいだ

だね」と

話しながら

歩き、

橋の上から

サククラの

花びらに触

ったり、記念

写真を撮ったり

しました。次

は、城崎温泉の

源泉にある足

湯を目指して

歩きます。

いい湯だな

足湯は気持ちいい！

足湯に到着。靴と靴下を脱いで足湯に入ります。「温か



いなあ」「歩いて疲れたよ」

「気持ちいいな」「いい湯だな」と

園児たちは、リラ

ックス。

足湯から

上がるよ、

お楽しみのお

やつの間、サク

クラを見ながら、

リングジュースを

みんなで飲みま

した。

楽しいな

帰って何を話そうかな？

もう、保育園に

帰る時間となり

ました。サク

クラ並木を友

達と元気に歩

き、楽しい思

い思い出の

一日になりました。

保育園や家庭

に帰ってから

楽しいお話が

できたかな。



笑顔の輪

音楽で、生活にうるおいとやすらぎを

『豊岡マンドリン・ギターアンサンブル』(豊岡)

豊岡マンドリン・ギターアンサンブル」の練習日の第2土曜と第4金曜日は、豊岡市民プラザの会場から、やさしい調べが流れてきます。

平成18年6月に4人で発足した同クラブは、現在、会員は20人になり、30歳代から70歳代までの方が、幅広いジャンルの音楽を楽しんでいます。

演奏では、主にマンドリン、マンドラがメロディーを、マンドセロが低音部を、ギターが伴奏を担当します。マンドラ、マンドセロは、マンドリンと形は同じで、一番大きいマンドセロが最も低い音を出します。マンドリンなどは、トレモロ奏法(音が連続する弾き方)で、とりわけ美しい音色を奏でます。



披露されたフェスティバルで練習成果を

昨年、「サロンコンサート」に加え、福知山市や丹波市のクラブと一緒に、初めて「北近畿マンドリン・ギターフェスティバル」を開催しま

した。また、養護老人ホームの慰問演奏会も行いました。今年も、市民音楽祭にも出演する予定です。

今後、近隣のマンドリンクラブとの演奏会を開催し、マンドリンを県北部で広めたいと夢は膨らみます。

3月27日も、熱心な練習が行われましたが、会員で指導者も兼ねる水嶋正之さん(出石町嶋)の「休憩」の声で、場はいっぺんに和みました。

会長の吉田真策さん(九日市上町)は、「音楽が好きなのが集まって、みんなで作っていき楽しさ、喜びは最高です」と話します。

7月には、プロの演奏家を招き、神鍋で合宿をします。家にギターやマンドリンが眠っている方は、ぜひ参加ください。

会への問い合わせは、吉田さんまで。☎24-10365